



行政分野では、両市職員を交互に派遣し合う職員交換派遣事業を実施しています。

◆ 職員交換派遣事業

両市の職員を毎年3か月ずつ交互に派遣する事業です。派遣された職員は行政機能などを勉強するとともに、自らの専門性や関心を活かした独自のプロジェクトを企画・実施します。

1998年の事業開始から2014年までの17年間、合計17名の職員が派遣されました。職員交換派遣事業は両市が互いの政策や制度、文化等について学ぶだけでなく、プロジェクトを通じて新たな分野での交流を生み出す貴重な機会となっています。

◆ 過去の交換職員とプロジェクト

1 大島將嗣 (平成10年・1998年)

行政へのボランティア導入状況や市の組織を調査しました。また、大府小学校とコーフィールド小学校の交流の橋渡しを行いました。



【感想】 最初の派遣ということもあり全てが手探り状態でしたが、ポ市職員や議員の方たちと良好な人間関係を構築でき、その後の姉妹都市交流の礎を作ることができました。学校間交流の提携交渉にも当たり、大きな達成感を感じることができました。

2 キャロル・リー (平成11年・1999年)

大府市中央図書館に外国語図書コーナーを創設し、両市の図書交換事業を立ち上げました。



3 久野幸裕 (平成12年・2000年)

高齢社会を見据え、誰もができるニュースポーツと日本のスポーツを紹介する講座を開催しました。



【感想】 スポーツなどを行う環境は非常に恵まれており、多くの市民がスポーツを行っており健康だと感じました。介護や病気を予防するためには、競技スポーツはもちろんですが、誰もが気軽にできるスポーツは高齢化社会を迎える両市でも必要であり、待望されるものです。グラウンドゴルフは、特にポ市のお年寄りに好評でした。



4 ヴァーン・クラスティンズ (平成13年・2001年)

姉妹都市合唱団を設立し、姉妹都市の歌を作曲して合唱祭で発表しました。



5 鈴置繁雄 (平成14年・2002年)

ポート・フィリップ市の動植物を調査し、紹介するホームページ作成の提案をしました。

【感想】 オーストラリア在来の独自生態を保全したり、復活させたりする取り組みやボランティア活動に参加することで、環境に対する意識の高さを感じることができました。また、意識を高めるための地道で多彩な取り組みは、新鮮で刺激的なものでした。



6 クラリッサ・フォースタ (平成15年・2003年)

小学生環境ポスターの募集・展示や川の清掃活動など環境教育プログラムを実施しました。



7 濱島千恵美 (平成16年・2004年)

保育施設にて子供に歌、手遊び、折り紙などの日本文化を紹介し、豪州姉妹都市協会の優秀賞を受賞しました。

【感想】 ポートフィリップ市のチャイルドケアセンター(保育園)をはじめ、小学校、民間の幼稚園などで、一緒に日本の遊びを楽しむことができました。移民の国でもあるオーストラリア。いろいろな国の子ども達。保育制度や文化、さまざまな日本との違いの中、同じなのは、子どもの笑顔でした。



8 ヨッタ・ミカエラ (平成17年・2005年)

ギリシャ系オーストラリア人の文化を伝えると共に、姉妹都市を紹介するホームページを作成しました。

9 山本貴之 (平成 18 年・2006 年)

子どもを対象にリサイクル講座を開催し、牛乳パックを使った紙すきなどを紹介しました。

【感想】 プロジェクトを通して、環境問題は、世界中の人が一緒に取り組まなければ解決できないことだと改めて認識しました。開催した講座を契機に、日本特有の「もったいない」という気持ちや活動を知ってもらい、身近なことから始める環境問題への取り組みが、家庭からコミュニティへ広がっていったらうれしいです。



14 カレン・ウォン (平成 23 年・2011 年)

自転車・オートバイ盗難防止キャンペーン、夜間サイクリング安全運転講座など、自転車を中心とした交通安全啓発プロジェクトを実施しました。

10 ニコール・ハートバイス (平成 19 年・2007 年)

学校、家庭、まつり、カラオケなどの音楽文化を通して両市を比較する録音構成番組を作成しました。



15 久野建史 (平成 24 年・2012 年)

日本の防災・省エネへの取り組みを紹介する講座を開く一方、セント・キルダ植物園への日本風庭園造成の提案を行いました。

【感想】 環境に関わる事で市民や職員と交流する時は、いつも日本語の「もったいない」を上げ、その言葉の意味と使われ方を紹介し、エコ生活を推進するキーワードとして広めてきました。「もったいない」が浸透し使われ、両市の交流をさらに深める1つのきっかけになってくれることを願います。

11 細谷健 (平成 20 年・2008 年)

健康をテーマに様々な日本料理を紹介するワークショップを開催し、豪州姉妹都市協会の優秀賞を受賞しました。

【感想】 Iron Chef (料理の鉄人) 一だげさな肩書きをもらい、日本の家庭料理を伝えるプロジェクトに打ち込みました。想像以上に和食の人気が高く、和気あいあいとした料理教室はいつも満員。料理を通じて、延べ 200 人以上の方々と楽しく交流できました。今もポ市の公園のバーベキュー台で「焼きそば」が作られていると嬉しいです。



16 アリーシャ・バーネット (平成 25 年・2013 年)

大府市にて 5 件、ポート・フィリップ市にて 5 件の取材を行い、両市の環境への取り組みを紹介する動画ウェブサイト「Green Stories」を作成しました。

12 ジェーン・ダーレンバーグ (平成 21 年・2009 年)

バーチカルガーデンの作り方やオーストラリアの料理を紹介するワークショップを開催しました。



17 濱島圭吾 (平成 26 年・2014 年)

ポート・フィリップ市周辺の洪水対策を調査し、大府市の治水対策を紹介する講座を開きました。

【感想】 市職員や市民の方へ大府市の治水対策を紹介する講座を開催し、水害に対する備えの大切さを伝えました。講座の参加者や情報交換をした方は洪水に対する意識が高い人ばかりでしたが、関心の薄い市民の意識向上の必要性を感じました。また、ポート・フィリップ市やメルボルン市などで見せてもらった洪水対策施設と水確保の対策施設は、大府市では見ることのできないものもあり、私にとって新鮮でした。

13 加藤厚史 (平成 22 年・2010 年)

施設管理制度を調査し、よさこいを紹介するワークショップを開催しました。

【感想】 オーストラリアではほぼ誰も知らない「よさこい」の紹介でしたが、皆さん熱心に私の話を聞き、一緒に踊ってもらい、とても楽しくワークショップができました。鳴子はとても珍しいようで、子どもたちに大人気でした。

